

事業計画書

事業名	郷土芸能継承事業	
重点テーマへの該当	有 テーマを記載	
	無	
実施箇所	望月人権センター、駒の里ふれあいセンター他	
実施期間	事業開始予定年月日 令和3年4月1日	
	事業終了予定年月日 令和4年3月31日	
事業概要	<事業の目的>望月小唄保存会として、地域の伝統的な郷土芸能である望月小唄を伝承・普及させていきたい。しかし、現在の会員は高齢化しているため、新たに若い世代の会員を増やし、未来への展望を拓くため、望月地域の若い世代の方々に望月の文化に触れてもらい、望月小唄を通して、地域の活性化を推進する。	
	<事業の内容>①有線放送、チラシ、ネットなどを通じて会員を募集する。②初心者が笛・三味線・太鼓・唄・踊りを基礎から練習する。③市内から楽器の寄付を受け、それを修繕して新会員の練習と演奏に資する。④新しい会員を含め、榊祭り、公民館文化祭、小中学校の催しなどに参加する。望月地区外の行事にも積極的に参加する⑤望月地区の公民館講座「郷土芸能」を企画実施する。⑥望月地区内外や移住者との交流会を開催する。⑦公民館の郷土芸能講座などで、冊子「望月小唄90年の歴史」を配布し活用する。	
	<達成目標>①笛・三味線・太鼓が演奏できるメンバーを増やす。唄・踊りのメンバーを増やす。②榊祭り、小学校運動会、公民館文化祭、望月地区外の行事などに大人数で参加する。③移住してきた若い世代との交流を深める。	
	<広報表示の方法（佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示）>修繕した楽器のケースへ「駒の里過疎対策プロジェクト支援金活用事業」のシールを貼付する。	
	<重点テーマに該当する場合 該当する理由（アピール）>	

年間計画	4月	会員募集、
	5月	会員募集、佐久鯉祭り参加、楽器修繕
	6月	会員募集、初心者基礎練習、「望月小唄90年の歴史」印刷、楽器修繕
	7月	定期練習、初心者基礎練習、中山道追分祭り参加
	8月	定期練習、初心者基礎練習、榊祭り民謡流し参加
	9月	定期練習、初心者基礎練習、望月小学校運動会演奏と踊り指導、敬老会出演
	10月	定期練習、初心者基礎練習、聖徳学園合宿生に踊り指導・演奏
	11月	定期練習、初心者基礎練習、公民館文化祭出演
	12月	定期練習、初心者基礎練習 公民館郷土芸能講座
	1月	定期練習、初心者基礎練習 公民館郷土芸能講座、移住者及び地元住民の若い世代との交流会で踊りと演奏、
	2月	定期練習、初心者基礎練習、公民館郷土芸能講座、望月地区内外の佐久市民との交流会で踊りと演奏、
	3月	定期練習、初心者基礎練習

特記事項	地域や社会にどのような利益がもたらされるか	<「公益性」の視点>望月地域内外で望月小唄を演奏することにより、望月の文化が多くの人に広まる。また、望月地域の若い世代と交流することで、地域が活性化される。
	市内へどのように取組が波及していくことが見込まれるか	<「波及効果」や「発展性」の視点>より多くの人々が望月小唄をうたい、そして踊るようになり、佐久市全体の望月小唄として広がっていく。
	どのような点に独自性や工夫があるか	<「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点>望月地区に移住者が増えている。その移住者にも参加を呼び掛け、保存会と移住者と地元住民との交流会などを開催する。。
	活動を継続するためにどう取り組むか	<「自立性」の視点>保存会として楽器を保有し、会員が練習や演奏会で使用できるよう管理していく。また、新たに若い世代の会員を増やすことにより、保存会としての活動を継続させていく。
	翌年度以降の活動内容概要	新たに会員となったメンバーを含め、令和5年度の望月小唄誕生95周年記念イベントの開催に向け、望月地域内外で演奏の機会を設けるなど、多くの人に望月小唄をPRしていく。
	事業の最終目標	望月小唄が全国各地でうたわれるようになり、それを通して佐久市望月への関心が高まり、交流人口や移住者が増え、豊かな郷土を作ることを目指す。